

この人を訪ねて #241

ライフワークは街づくり活動の支援と実践

技術士 一級建築士 土地地区画整理士

松田 智仁(まつだ ともひと)さん 68歳

広島市役所(旧五日市町)に入職後、ほぼ都市計画部門に在籍... 地域の「魅力ある街づくり」など支援。広島大学院教授、定年退職後も広島市江波山気象館長や広島子ども文化科学館長など、数多くの団体の理事を歴任。お望み職歴に反して、趣味は洋蘭(らん)の栽培、サイクリングでのラリーや名所めぐり。



松田 智仁 (まつだ ともひと)

広島市南区大須賀町在住 1956年広島市中区生まれ 広島市鞆小・中学校、基町高等学校、広島工業大学工学部建築学科80年卒業 旧五日市町役場就職 '85年広島市二合併で広島市職員に市都市計画部門に長く在籍、広島大学院教授、'17年定年退職後江波山気象館長、子ども文化科学館長 草津まちづくりの会メンバー 資格:技術士、一級建築士他 家族:妻、2女、孫3人

昨年9月15日(日) 草津まちづくりの会主催の「第24回草津オープンミュージアム」が、草津御幸川沿いの草津まち交流広場を中心に行われた。そこに熱心に写真撮影している人がいた。名刺を頂く。名刺に「松田智仁」となっていた。名刺には広島魅力ある「まちづくり」アドバイザー、広島YMCA副理事長、広島アマゾンシティ理事、広島工業大学同窓会会長などが記載されていた。

松田さんは草津まちづくりの会には発足(2000年・平成12年)間もないころから関わり、「御幸川源流」探検や笹船レースなどを担当していた。日本一人口が多い旧五日市町に就職 1980年(昭和31年)広島市中区で生まれた松田さんは、鞆町小・中学校、基町高校から、佐伯区・広島工業大学工学部建築学科を1980年に卒業。当時日本一人口が多かった旧五日市町役場に卒業と同時に入職。広島市が人口100万の政令指定都市を目指し周辺の市町村を編入合併しており、1985年3月広島市は五日市町と合併し、同町は広島市佐伯区になり、松田さんは広島市の職員になった。

建築一家に育ち 松田さんの家系は、建築一家庭である。故実父は大工さん。親戚にはゼネコン、工務店や建築設備などの建築関係者が多く、主だった人たちは建築士の資格を持っている。「あんなの息子は建築士の資格を持っていない」といわれ、松田さんも1985年には一級建築士の資格を取得している。その後建築士の数倍の給料といわれる技術士試験も取得。

ライフワークになる都市計画関連部署に配属 大学では松田さんは都市計画研究室に在籍しており、五日市町建築部都市計画課に配属され、5年後五日市町が広島市に合併後も、広島市都市整備局都市計画課主事として勤務した。都市計画の仕事はライフワークになる街づくり活動のスタートになった。 2017年60歳定年退職までの間、ほぼ都市政策に携わり、途中郵政省に派遣、広島大学大学院社会科学部研究科の教授や工業技術センター長を歴任。定年再雇用

の5年間に、広島市江波山気象館長、広島市子ども文化科学館長を務めた。 魅力あるまちづくりに貢献 仕事を通じて社会的にどのように「貢献したか」の問いに松田さんは次のように話した。 「広島市の魅力あるまちづくりのアドバイザーとして庄原市東城地区の指導、また庄原市市街地公共施設の在り方の検討委員。広島市南区まちづくり懇話会会長や広島市西区草津まちづくりの会に参加。異色なところでは、広島アマゾンシティの理事、広島YMCAの副理事長などのほかに、母校広工大の建築・環境学科同窓会の会長と同大学の同窓会会長もやっていました。

「地方公務員になりましたから、都市政策の研究や都市計画学会、建築学会の活動、また前述の草津まちづくりの会、アマゾンシティ文化振興活動などを通して、街づくりの「目玉」に努めてきました。」と。 現在の問いに、「一度目の人生の定年退職後は、大学生時代にボランティア活動を学ばせてもらった広島YMCAに恩返ししたく、事業や活動のお手伝いをしています。そのなかで、広島市・八丁堀の市街地再開発事業の支援も担当してまいりました。」と述べた。

草津まちづくりの会のメンバー 広島市西区草津地区で開催された「草津まちづくり学校」の講師をしたのが縁で「草津まちづくりの会」のメンバーになった。 「草津まちづくりの会」は1988年(平成10年)6月に、広島市西区草津南二丁目にあった「大石餅店」の閉店イベントを機に「草津まちづくりの会」を立ち上げた。この活動は広島市の西区の魅力づくり事業(草津まちづくり学校)に認定され、「草津まちづくりの会」に改称され現在に至っている。

*大石餅と忠臣蔵... 西国街道に面した大石餅店は江戸時代の文政年間(1818年頃)、忠臣蔵の大石内蔵助の次男が商人になって創業したと伝わる草津名物で播磨屋敷・お国という夫婦が餅をばいせその店頭に大きな石があったことから大石餅といわれたと説がある。いづれにしても由緒ある広島三大名菓の一つであった。

御幸川源流探検、笹船レース 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 「御幸川源流探検」は、毎年9月初旬の休日に開催される。草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。

草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。

草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。

草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。 草津まちづくりの会代表委員松田智仁氏に話を聞いた。

24回を数え、御幸川沿いの「草津まち交流広場」を中心に数多くの催しものが繰り広げられ、なかでも小泉本店酒造での酒蔵コンサートフルト音響、サクセス(酒蔵)が大人気だった。松田さんは酒蔵コンサートで写真撮影を担当した。 忙中閑あり 洋蘭とサイクリング 職業柄、松田さんのお話は「がたい」部分があるが、趣味を聞いたらびっくりした。「洋蘭(らん)の栽培、サイクリング」である。 「忙中閑あり」(ぼっちゅうかんあり)という言葉がある。どんなに忙しかくても時間の余裕を作り出すの意図で、その言葉通り、松田さんは忙しい職務の間をぬって洋蘭(らん)の栽培(サイクリング)という癒しの趣味を持つ。 洋蘭は30年前次女が通っていた小学校のバザーで購入したもので、以後趣味が高じて現在70鉢余のいろいろな種類を栽培している。しかし松田さんは定年後のことを考えた。「洋蘭の栽培は室内の作業になり、健康面から体を動かすことにはならない。まして定年後は俗にいう「ぬれ落ち葉」状態になり、妻から嫌われかねない」と。思い切ってサイクリングをはじめ、以前から立ち寄りしていたスナックのママの「チーム」としてに参加した。

しまなみサイクリングは教知れず 2011年に自転車を購入してサイクリングを始めました。その年の11月、とびしま海道を往復するコースを手始めに40kmを走破。代表的コースでは、しまなみ海道を47回走行。琵琶湖一周、つばき湖一周や三次川西タイムラリーで完走表彰を受けるなど、サイクリング歴13年半で161回サイクリングし、その総距離1万3000kmに及ぶ。何より驚いたのは、毎回行程の記録を残していったことだ。 ちなみに、2020年10月しまなみ海道サイクリング行は「広島駅で乗ってきた自転車を分解。JRで尾道駅到着し組み立て、渡船して向島へ。今泊ホテル宿泊。多岐羅しまなみ公園、JR尾道駅で自転車解体。広島駅で組み立て自宅へ。走行距離101.5km。途中での食事や買い物」と詳細に記録をつけている。自宅にはなんと一中距離用、長距離用、冬雪山道用、バス旅行用、まち乗り用、*街中ポタリング用の用途別自転車6台も置かれているという。松田さんはあまり自転車に乗りすぎず、お尻のサドルが当たるくらいで走るのが好き。右左の回にわたって準備して走った。年季が入っている。(※気ままな走り)

現役時代「仕事中心の毎日と平日には諸々のNPO活動のため、家庭を大切にすることがあった」と反省。妻に感謝です」と松田さんは述べた。(編集 倉田和峰)